

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900129		
法人名	医療法人 木村内科医院		
事業所名	グループホーム 彩友		
所在地	〒812-0041 福岡市博多区吉塚1丁目33-10		
自己評価作成日	平成31年2月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4080900129-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4080900129-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成31年2月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 医療法人として内科が隣接している為看取りまでのケアは充実しており安心感が提供できる。
- サロンと協賛しており地域住人とのコミュニティも確立している。  
(サロン設立から3年間継続中)
- 委員会の定例化内外研修への積極的参加
- 防災対策への取り組みは地域との連携も進展している。
- お一人お一人がゆっくりしたペースで生活できる環境作りを心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近くには吉塚商店街や公共の施設が多くあり、気軽に利用者と一緒に商店街まで買い物や外食に出かけるなど、住みやすい環境にあります。

開設して7年になるホームは地域住民とも顔なじみの関係であり、地区会長をはじめ地域の方と色々な場面において協力体制が築かれています。利用者と職員は地域サロンでの継続的な交流を図り、介護予防活動に協力されるなど、地域住民の一員としての繋がりを大事にされています。

母体が医療機関ということもあり、看取りのサポート体制が充実しています。また、本人・家族の意向に沿った最期を納得した形で迎えられよう、経験豊富な看護師が中心となり、家族や医療機関と連携をとりながら支援に取り組まれています。

彩(さい)・友(ゆう)の各管理者を中心として、利用者・家族の意見を尊重しながら寄り添ったケアを大切に、サービス向上に努め日々の支援に取り組まれています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員を対象としたアンケート調査を行ったが賛否の意見に別れ理念自体に対する理解のズレがあります。	開設当初より大切にしてきた理念は全職員で共有し、地域に根ざした事業所として実践に向け取り組まれています。現在、理念をもう一度見直す機会を設け、全職員に向けてアンケート調査を実施し、職員の声を聞きながら検討し合い、支援方針を改めて作り上げられる予定です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	サロンが設立され薬局と医院と当施設で協賛運営を行っています。	地域交流サロンでは、体操教室や茶話会など毎月定期的に利用者や職員が参加し、地域住民との交流の場になっています。そのサロンが情報の発信となり、夏祭りには近所の方々で大盛況のようです。また、近隣の散歩や買い物に出掛けるなど地元の商店街活用を通じて、積極的に地域と交流を継続的に深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンの中で地域の方達に認知症予防体操や脳トレゲーム、カラオケ、麻雀を一緒に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の参加が多いのでサービス向上に活かせる多くの意見が頂ける。	会議は定期的開催され、町内会長はじめ地域の方や多数の家族が出席されています。ホームの活動内容から取り組み状況などを報告し、さまざまな意見や情報を持ち寄り、次のサービス向上への取り組みへと繋がられています。提案や助言など、活発な意見交換の場となっていることが議事録からも確認されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運推に参加協力を頂いています。市町村関係の研修参加。	書類の提出のほか、何か分からないことがあると電話での相談や直接訪問し助言を伺うなど協力対応されています。また、地域サロンへの参加により、包括支援センターとの交流もあり、ホームの実情を理解されているため、相談しやすい関係性が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会と身体拘束廃止委員会で毎月報告と分析を行っています。	利用者の行動や習慣を把握し、行動を抑制せずその方の気持ちにより添った対応に努められています。認知症により周辺症状が強い方は、家族と定期的に話し合いながら、対応の仕方や工夫をされています。身体拘束に関して研修を行い、行動や言葉による拘束について全職員に周知するとともに、そういった場合には管理者がその都度注意喚起されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学習を深め虐待防止にとりこんでいます。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内・外の研修で学ぶ機会を持っています。	入居時の契約の際、家族に制度について説明され、相談にも応じられています。現在、成年後見制度を利用されている方もいらっしゃいます。身近な制度として認識し、理解を深めるため、職員が学ぶ機会も設けられています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	信頼関係を良好に保ち十分な説明をていねいに行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運推には行政・地域ご家族が必ず参加出席され意見を活発に発言される。	家族の面会時には、職員は利用者の状況を積極的に伝え、なんでも話し合える関係を築かれています。意見や要望は職員間で共有し、日頃のケアに反映されています。運営推進会議では家族の参加が多く、意見や要望、苦情など言いやすく意見交換の場として生かされています。現在のサービスについてアンケート調査を実施し、家族の声を聞く機会も設けられています。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行っています。	普段から管理者は職員の意見や提案を傾聴し、相談しやすい関係を築かれています。日頃のケアに関しての気づきや提案などを収集し、ケアの実践に生かされたり、業務内容に取り組みされています。また、定期的に管理者と職員とで個人面談も実施され、働きやすい環境作りにも努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実地しており処遇改善手当に反映しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	パート雇用を始め働きやすい環境を考慮した採用を心がけています。	職員の採用にあたっては国籍や年齢などの制限はせず、多様な人材を受け入れてられています。個々の希望に沿った勤務形態を考慮し、一人ひとりの実力や経験年数を考慮しながら資格取得のサポートを行うなど、目標を持って仕事ができ、働きやすい職場環境に努められています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者のプライバシーや接遇にとりくみを行いながら研修の内容にとり入れています。	プライバシー保護や人権・接遇に関する研修を実施し、学ぶ機会を設け職員教育に努められています。また、言葉使いや接し方など、接遇マナーに関する心得を冊子にし、全職員で共有し合い意識向上に取り組まれています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合わせたトレーニングを行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りの為の勉強会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎月2ヵ月毎位の間に担当者がモニタリングやアセスメントを行い不安除去に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望はケアマネや主任達からの情報で必ずカーデックスにおとしこんでいます。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望・ご家族の要望を伺い一緒に考える。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全利用者への声かけや介助には良好な関係作りを意識して取り組んでいます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時はサポートする場面が多い。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出で支援しています。	これまでの関係が深い人や場所を家族からの聴取により把握するよう努められています。商店街の店へ外出支援など要望に応え、家族の協力を得ながら墓参りや行きつけの理美容室へ出掛けられたりと関係が途切れないよう努められています。馴染みの友人などの来訪もあり、ゆっくり過ごして頂けるよう雰囲気作りに配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならない様に早めの介入を心がけ声かけをふやし利用者同士の関係を良好に保っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死去や入院で退所後もその家族が遊びに来たり相談をされています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向は大切にしておりアセスメントの中で希望を伺い本人本位になる様皆で検討している。	各担当を決め、日頃からの関わりの中でその方の思いや望みを聴取されています。得た情報は家族の意向と摺り合わせながら、カンファレンスで全職員が共有し、関わり方やケアの統一を図り毎日の支援に取り組まれています。曜日によっては、利用者と職員が関わる時間をじっくり設け、コミュニケーションやふれ合いを多くもち、思いや意向の把握に努められています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と話す機会もあり生活歴を把握しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフで共有できる様に記録や申し送りでの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はカーデックス上常に全スタッフがいつでも見られる状況にしています。	家族の面会時に意向を聴取し、日頃の関わりの中で利用者の思いや望みをくみ取り、担当者が中心となって情報を集め、カンファレンスで支援について話し合われています。アセスメントに基づき計画作成担当者が作成し、定期的なモニタリング・見直しが行なわれています。利用者・家族の意向が反映された現状に即した計画であることが確認できます。	利用者の課題分析をするために必要な情報となるアセスメントシートを、より簡潔に分かりやすく利用者の人物像が想像できるような書式を工夫されることを期待します。また、ケアに携わる全職員が、目標実現に向けて更に介護計画に関わる機会を増やされる事を推奨します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有は出来ているが介護計画の見直しは十分に出来ていない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては常に皆で検討しあっています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して豊かな暮らしが楽しめる様に外出支援や近隣の散歩を心がけている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設自体は医院の敷地内にあるため協力病院との連携もスムーズに治療を受けられます。	かかりつけ医は、敷地内にある母体の医療機関で、定期的な往診と24時間安心した医療が受けられています。内科以外の専門医への受診は、家族の協力を得ながら継続して支援されています。他の協力医療機関との連携も図られており、緊急時の対応もスムーズに行われています。家族や職員の連絡方法も確認し合いながら、情報を共有されています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携ノートも活用しており日々の変化の確認を毎日行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者様の状況をTELで確認し2～3日毎に訪問する。 早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族の意向を伺い主治医を混えた面談を行っている。 再確認もしています。	これまで看取りの経験もあり、看護師を中心に家族、主治医、職員間で方針を共有し連携しながら、安心して最期を迎えられる体制が整えられています。看取りケアの職員研修を実施し、共通認識のもとサポート態勢の強化に努められています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の準備を事前に確認し用意しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(昼・夜間)運推でも地域協力体制の呼びかけを行っています。	年2回、昼夜の火災時の避難訓練を実施し、避難経路を全職員で再認識しながら、地域住民との協力体制も築かれています。また、非常災害時に備えての研修を行い、防災委員会を中心に災害意識の向上を図られています。	火災時を想定した避難訓練は実施されていますが、地震など自然災害時の訓練は未実施です。とっさの判断や行動、利用者を安全に導くための手段など職員と共通認識を図るためにも、日常の地震対策や勉強会を開催されることを推奨します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをし、排泄時のプライバシーには配慮している。	プライバシー保護に関する研修や接遇マナーの勉強会を定期的に行い、職員の意識統一が図られています。言葉の掛け方一つでも、その方の気持ちにより添った対応を心掛け、特に排泄時などは羞恥心に配慮しながら、さり気なく、かつ迅速に対応するよう努められています。また、言葉の掛け方や声量など不適切な時は注意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちを大切に選択しやすい問いかけを心がけている。 表現する事が難しい方は表情や行動で気持ちを汲み取る様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムやその時の状況を把握しながら希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時に理美容を利用している。 毎日の服装も本人の決定を優先しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を変更したりして食事が楽しくなる工夫を行っている。イベント食や手作りの献立を提供している。 検食の意見を反映月に2回のお弁当を提供している。	食事は栄養バランスを考えたメニューで業者に依頼されていますが、利用者に食の嗜好を聞き、献立に取り入れるなど柔軟に対応されています。 また、外食の機会や地域の店からお弁当を取り寄せたりと楽しみもあります。 利用者と一緒に天ぷらパーティーをされたり、楽しいイベントも設けられています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の状態に合わせた形態で提供し食事水分の摂取量のチェックを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご入居者の状態にあった方法で口腔ケア 義歯洗浄うがいを行っている。 必要に応じて訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握することでトイレ誘導や夜間のポータブルトイレ使用等で自力で排泄できるように支援している。	職員は一人ひとりの排泄時間の間隔や習慣を把握し、声かけのタイミングを見計らいながら誘導を行いトイレでの排泄支援に繋がっています。 一人ひとりにあったパットやオムツを選定し、残存能力を活かしながら本人ができる事は本人に任せ自立に向けた支援を実施されています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握すると共に日頃よりご入居者に合わせた水分補給食事の工夫、運動等を行い自然排便ができるように支援している。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能で一人一人の希望に合わせて柔軟に対応をしている。 拒否がある時は時間やタイミングをずらして支援している	その日の体調や気分に応じ、時間帯や日をずらすなど柔軟に対応されています。身体的な負担がある方は、職員2人で介助し安全に留意されています。また、個々の愛用の洗髪剤や入浴剤が使われるなど、リラックスして入られるよう工夫もされています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め夜間に安静して頂けるよう支援している。 居室の温度調節を行っている。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤状況をいつでも把握できるようにしている。 申し送りノートに記載し申し送り時に伝えスタッフ間で共有できるようにして誤薬がないようにダブルチェックをしている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を生かしたレクリエーション家事等を個々に合わせた生活行動が行えるような支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望によりご家族、地域の人と協力を得て望む場所へ外食外出している。	天気が良い日には、近所の商店街に散歩に行ったり、毎週水曜日は外出の日とし、行きたい所へドライブや外食したりと戸外へ出掛ける機会を設けられています。 花見や地元のお祭りへ出向かれたり、野球観戦など普段では味わえない楽しみも計画されています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理している方お預かりして管理している方と個々の能力に合わせて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしている。 手紙を出す方は現在いないですが、届いた手紙は手渡しし読めない方は了承を得てスタッフが読み上げている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室・トイレはわかりやすいようにしている。 共有空間にはご入居者が作った作品等を飾り家庭的なふいんきを心がけている。	共有の空間には、利用者の作品や季節が感じられるような飾り付けをし、アットホームな雰囲気が感じられます。トイレも分かりやすく表示され、車椅子の方でもスムーズに移動できるスペースであり、上半身を支える手すりボードも設置され、安全面に考慮されています。空調管理や掃除も徹底され、過ごしやすい室温湿度に清潔な空間に保たれています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル等で気の合う人と会話を楽しめるような空間を作っている。 お茶などを出してくつろげるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き、身体に合わせて配置を行っている。居心地よく過ごせるように工夫している。	これまで使い慣れた家具や冷蔵庫の持ち込みも可能で、利用者・家族の要望に合わせています。居室には、家族の写真や思い出の品などをレイアウトし、居心地よく過ごせるような工夫をされています。ベッドからの転倒リスクがある方は、マットを敷いたり手すりカバーを着けるなど、家族の協力を得ながら安心して暮らせるよう配慮されています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレや廊下には手すりがあり、ご入居者ができる事を最大限に生かして頂けるように介入している個々の能力に応じて自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目に付く場所に理念を掲げている。理念の見直しを全スタッフに提示し、検討中。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食の機会を多くし、地域との関わりを多くもつように生活している。施設の行事に地域の方をお誘いしたり、地域のイベントに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター研修に参加したり、運営推進会議で認知症について説明している。又、地域の方の見学、相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を調整し、ご家族や地域の方が多く参加できるようにしている。要望に対応し施設の現状や問題点の説明等を行い、一緒に考え、解決の方向を検討している。又、地域の情報をもらい入居者様とイベントに参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や報告書の提出などで頻回に区役所、地域包括センターに行っている。その際に相談や日々の活動の報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず外出したい様子があれば一緒に出かけたりと安全面に配慮し、気分転換を図れるように工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やマニュアルをもとに内部研修を行い防止に努めている。自分だけでなく一緒に働く職員同士でも声をかけあい防止している。新人研修にも取り入れている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や内部研修を行っている。管理者はいつでも対応できるように施設独自の研修も受けている。成年後見利用についてご家族の相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解できるまで時間をかけて説明し、納得の上で契約を行っている。不安な事や疑問点にはしっかりと説明を行い、理解してもらっている。退去時も主治医と相談しご家族と協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族、面会者が話しやすいように職員から積極的に話しかけるようにしている。アンケート等でも意見や、要望を伺い、スタッフ会議にて改善に取り込んでいる。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や個人面談を定期的に行い意見や提案を管理者会議で話し合い、運営に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会を設置し評価基準を設けている。その評価に沿って賞与の査定を行い、向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。又、随時個別面談を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、国籍を問わずに採用し、経験や実力が十分出せる職場作りを心掛けている。趣味や子どもの行事、資格を取る為に休みや勤務時間を調整している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束の排除等人権について内部研修を行い、人権教育について学習する時間を設けている。又、接遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修を行っている。各委員を設置し委員毎に毎月内部研修を行っている。又、外部研修希望者が参加できるように勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の活動や情報交換をしたり、意見交換を積極的に行っている。又、他施設の見学を受け入れ、見学時に意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し面談を行い、要望を聴くようにしている。入居時でも不安にならないように話す時間を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居前の面談時から要望等を伺い、納得して契約をして頂いている。又、契約時も時間をかけて要望を聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の要望を聴き、入居者の身体機能や全体の生活機能を考えどのようなサービスが必要かを考えて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち尊敬・感謝を忘れず共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスをもらっている。又、食事作り、掃除、洗濯等できる事を一緒にしてもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り協議し、共にご本人を支えていく関係作りを築いている。外出、行事、誕生受診もご家族と連携をとり行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、電話の取次も行っている。又、生活していた地域の商店街や理美容室に行けるように可能な限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを大事にしている分、関わりが少ない方もいる。同じ時間を共有し関係を深められるように努めている。又、席替えを行ったり、大きなトラブルなく生活できるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状況に応じた施設や病院の選択、入居時の情報提供や定期的なお見舞い、亡くなった際の通夜葬儀への参列、ご家族への電話、遺品の整理など、支援をできる限り行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人、ご家族の意向を把握し、出来る限り要望に沿った生活ができるように支援している。又、意思を伝える事ができない方に対しては生活の中で把握していく努力を全員でしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人より伺いスタッフ間で情報共有できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者の様子観察を行い、申し送り時やスタッフ会議の実施により、現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り等で常にスタッフ間の意見交換を行い、ご本人、ご家族、主治医の意見を反映した介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活状況を記入し、変化がある場合には申し送りやスタッフ会議で話し合い介護計画に反映させている。又、実践できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に応じた支援を考え、家庭行事や社会活動への参加など個々に応じた支援を心がけ、実践している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の警察との連携、消防、商店街、民生委員等と協力しながら、生活圏が維持できるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人が同敷地内にあり、協力医院との連携もスムーズに行っている。ご家族の希望時は送迎、付き添いも行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、常に介護士との連携が取れている。協力機関の看護師とも両者間で常に連携がとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での生活状態を情報提供し、家族やご本人の希望を聞いた上での電話での連絡、直接病院に出向く等し、医療機関との関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に意向を伺い主治医と相談し希望に応じられるようにしている。又、入居後も常に今後の方針をご家族と話しあっている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し研修を行っている。外部の研修に参加している。又、事例検討を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立会いの元避難訓練を行っている。又、運営推進会議時に地域の方に協力を依頼し訓練に参加してもらっている。非常時に備え飲料水、非常食の準備をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を忘れず、言葉かけや対応については、誇りやプライバシーを損なわないよう配慮し、特に入浴・排泄介助には気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを大切に、自己決定しやすい問いかけを行っている。又、表現することが難しい方は、表情や行動の変化に気配りし、気持ちを汲み取るように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターン・リズム、その時の状況を把握しながら、ご本人の自らの行動を優先し希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望時に理美容を利用している。男性の髭剃りや女性のマニキュアの支援を行っている。毎日の服装もご本人の決定を優先している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを普段の会話の中から読み取り、メニューに取り入れている。又、昔からの行きつけのお店に外食している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居様の状態に合わせた形態で提供し、食事・水分の摂取量のチェックを行っている。又、主治医に報告している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様の状態にあった方法で口腔ケア・義歯洗浄・うがいを行っている。又、必要に応じ訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導や夜間にポータブルトイレを使用する等し、自立に向けた支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	上記、チェック表にて状況把握し、水分補給や調整を行い、又食事の工夫や運動を行い、自然排便ができる様に支援し、それでも困難な方は主治医の指示の元、下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便宜上、入浴日は決めているが、基本、毎日の入浴は可能とし柔軟に対応している。拒否があった場合は時間やスタッフを交代する等して対応し支援を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように日中の活動性を高めたり、又日中においても、ご本人の状況に応じ休息できるように支援している。居室の温度調整も行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤状況を常に把握し、変更時は申し送りノート等で情報共有している。服薬時は誤薬が無いように二人で確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を活かし、家事のお手伝いやレクリエーションを個別に実施。又、外出等での気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の都度ではないが、近所の商店街やコンビニ等に散歩がてら外出している。計画を立て希望を考慮、協力を得て外出している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせて本人管理の方、施設預りの方への対応をしている。近所での買い物や訪問販売の際に支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能。現在、手紙を出される方はいないが、届いた手紙はお渡しし、読めない方は代読している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札とかけ、自室や場所をわかりやすくし、共用フロアにはレクリエーションにて作成した季節の飾り物や作品を飾っている。洗面台、トイレは使用後に清掃、消毒を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの配置に気を使い、気の合う者同士は、楽しく、気の合わない方達は距離をおける様に配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常的に使用する家具は、以前より使い慣れた物を用い、身体状況に合わせ安全に配慮した配置を行っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下等に手すりを設置、居室やトイレ等には表札をかけ、わかりやすくし、入居者様の安全と自立を支援しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		